

はじめに

日本は、大きな構造変革の中にあり、労働市場を含め経済、社会について様々な見方が提示されています。とくに労働面についてみても、労働力人口の高齢化、高学歴化、雇用・就業形態の多様化等の様々な変化が生じています。このような時代には、現状を正確に示し、冷静な検討のための素材を提供してくれる統計の役割がますます重要となります。

労働統計加工指標は、複数の労働統計の調査結果を素材にして、それらを組み合わせて新しい統計指標にしたものです。政府が行う経済分析では従来から統計を組み合わせた分析が行われてきました。しかし、それらはその時々を試みで終わっています。この「ユースフル労働統計」では、これまで政府の各種白書等で採用されてきたものの中から、あるいはそれをヒントとして自主開発したものも含め、今日でも有用と思われるものを選別し、取り上げています。

なお、ここ数年、経済構造や就業構造の変化を受けて労働統計についても大きな変更が行われています。できるだけ時系列比較ができるよう加工を加えています。接続が困難なものや注意を要するものについては注釈を付けています。

本書が雇用・賃金等労働市場の動向を見るための資料として、労使や行政等労働問題に関わる関係者に幅広く活用されれば幸いです。

2007年3月

労働政策研究・研修機構

情報解析部長 南 和男